

# 内外情勢

## 調査会

諏訪支部6月懇談会

内外情勢調査会諏訪支部（支部長・佐久秀幸長野日報社会長）は27日、支部懇談会を諏訪市湖岸通り3のホテル布半で開き、講演・著作の白駒妃登美さん（ことほぎ社長、福岡市）が「日本人は逆境をいかに乗り越えたか―歴史に学ぶ、コロナ新時代の生き方」と題して話した。歴史に名を刻む偉人を引き合いに高い道徳と奉仕の心を日本人の美とし、「命に代えても守

## 日本人は逆境をいかに乗り越えたか

―歴史に学ぶ、コロナ新時代の生き方

ことほぎ社長

しらこま ひとみ  
白駒 妃登美 氏



りたいもののために自分の命を尽くして。今の逆境も幸せも未来の自分のために必要なこと。そう受けて立つ気概に日本人の生き方がある」と鼓舞した。

白駒さんは幼少期から歴史や伝記に深く心を寄せながら進学し、敗戦色の濃い日本を脱したい気持ちで航空会社に入社。客室乗務員として諸外国を巡る中で「日本人の譲り

合い、与え合い、助け合う道徳心の高さが外国人に愛されていると知り、日本人の誇りを取り戻した」という。

「日本書紀によると、天照大神は民の心を知り、慈悲の心での統治を命じた。神話ではあるが、日本においては現在も最高のリーダー像。リーダーは人間力を磨き、徳を積むことを尊しとし、民は孝養をもつて誠心を尽くす。神話からつながる日本人の姿は厳然と存在する」と述べ、「神話が史実かどうか重要なのではなく、日本人が信じ、お

それ、大切にしてきたことが描かれている神話を学ぶのは人間の根っこを育むのに大切なこと」と強調した。

がんを患い『命の使い道』と向き合って、「今を懸命に生きることを歴史の偉人から学んだ」とも。異常気象や新型コロナウイルス感染症拡大など災害が相次ぐ時代に際し、「祭りや花火大会など伝統文化は感染症の鎮めで始まったものも多く、日本人は感染症とうまく付き合い、暮らして取り込んできた。先の新時代にあるのは礼節を重んじ、清め、心を養う日本人らしい暮らし方」と示した。

## 守りたいもののために命尽くして

（日比野真由美）